

一 般 質 問 通 告 書

令和 7 年 北秋田市議会 3 月定例会

順位	2-2	質問者	1 福田 牧子	(公明党)	出席を要求する理事者	市 長
質 問 事 項 及 び 要 旨					理 事 者 の 答 弁	
1. 防災・減災について ①避難所の体制（環境整備）について 能登半島地震、洪水被害における避難所の環境による関連死が報道されている。内閣府が作成した避難所運営ガイドラインにおいて、人道憲章と人道対応に関する最低基準（通称：スフィア基準）がある。生命保護のために必要不可欠な4つの要素について最低基準を設けている。 ・給水、衛生および衛生促進（WASH） ・食料安全保障と栄養 ・避難所および避難先の居住地 ・保健医療 これらの最低基準は、尊厳ある生活への権利に基づく質的な内容である。 1) 今年度、県が市町村を対象に「災害用物資・機材等、備蓄状況調査」を実施されたと思うが、災害用物資・機材等の再考や見直しがあったか否かご教示下さい。 2) スフィア基準に照らして必要な避難所整備についてお示し下さい。 3) 災害時に避難所となる学校体育館の耐災害性と空調整備が必要と考える。現状についてご教示下さい。 4) 文部科学省事業の中で空調設備予算である「空調設備整備臨時特例交付金事業」に当市の申請の有無をご教示下さい。 5) どのような自然災害を想定し避難所を開設しているのか、その基準をご教示下さい。 6) 学校体育館等の鍵の管理状況をご教示下さい。						
2. 熱中症対策について ①冷水器（5℃～15℃）の設置による、熱中症対策 近年、6月～9月の期間の猛暑による熱中症者の救急搬送や死亡数の増加の深刻な状況が報告されている。 特に体温調節機能が低下している高齢者、体温調節機能が未発達の小児・幼児はリスクが高く、脱水や高体温によって						

熱中症を発症しているため、この年代での予防ケアが重要であると云われている。

- 1) 年齢階級別死亡数では、高齢者（65 歳以上）の熱中症が日常生活でも発生している。市の熱中症予防対策をご教示下さい。
- 2) 思春期前の子ども（おおむね小学生）は、大人（保護者や教員）の熱中症対策が必要であるが、学校としての対策をご教示ください。
- 3) 公共の場所（体育館、公民館等）に冷水器（水道水を冷却）を設置、マイボトルで水を補充する事は、熱中症対策、脱水予防対策の啓蒙、ペットボトルの減量（SDGs）等の観点からも有益であると考えます。当市で取組む考えについてご教示下さい。